

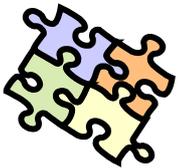
はもりあ

「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働という素敵な“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。

2006年10月に公募で決定した男女共同参画センターの愛称です。

2008年8月1日発行

はもりあ四日市は、8月1日で13年目に突入しました～。今後ともよろしくお願いたします。
さて、センター始まって以来、初の取組みとして、「夏休み子どもさんかくカレッジ」を開催中です。
第1弾として、“自由研究をやっつけちゃおう！ちょこっとさんかく教室”を先月23日に開催しました。
「2回続けて女の人が大統領になった国がある？」などいくつかの質問を×で答えたり、ワーク・ライフ・バランスにちなんで、バランスをとるやじろべえやモビールを作りました。折り紙や紙粘土で飾りを作ったり、絵の具で色をつけたり、どれも世界でたった一つの素敵な作品になりました。



管理職及び男女共同参画推進員研修を

7月18日に開催しました！

四日市市は、男女共同参画社会の形成のための施策を総合的にそして全市を挙げて取り組むために、副市長はじめ各部の部長級を中心とした「四日市市男女共同参画推進庁内調整会議」、各部の主管課長等を中心とした「幹事会」、そして、各所属に「男女共同参画推進員」を組織しています。これらの組織では、男女共同参画の視点に立った行政を推進するための話し合い、調整を行うほか、四日市市における男女共同参画社会の形成のためには、「まず市役所から！」ということで、毎年管理職と男女共同参画推進員を対象に研修を行っています。

今年は、「四日市市の発展と男女共同参画」をテーマに、日本政策投資銀行の藻谷浩介氏にご講演いただき、170人の職員が出席しました。

消費の落ち込みは現役世代人口の落ち込みが原因！

講演は、経済の話から始まりました。三重、名古屋、東京、大阪などの小売商業の比較をし、データから国内消費が落ち込んでいることをはっきり証明してくれました。また、石油ショックの頃から5年刻みの人口構成の変化を画面でパッパッと映し出していき、20～59歳の現役世代の人口が減少し、国内消費の落ち込みが進むと説明してくださいました。そして、20～59歳の人口減少分を補い、景気を活性化させるには、教育や福祉などにコストがかかる移民等に頼るのではなく、社会人経験のある専業主婦層の就労を促すのが一番よいとのことでした。

地域活性化のカギは女性と元気な退職高齢男性！

経済を活性化するには、女性の就労の促進と男女間の賃金格差を解消すること、そして、家事のワークシェアリング(元気な退職高齢男性による家事負担をお願いする)など、「ワーク・ライフ・バランスの回復」が必要です。女性の就労が増えて、収入が増えれば、個人消費も増えて、税収も増える。継続して働ければ、保育所も利用できて出生率も上がる。税収が減ったら市は成り立たない、もっと危機感を持って、市の活性化のために尽力すべきとの助言もいただきました。

各々が仕事を進めていくうえで、男女共同参画の視点や女性の力の活用がいかに大切かということのを再認識させられるいい講演会でした。



講演する藻谷先生(総合会館)

さんかくカレッジはじまるよ！

9月からいよいよ“さんかくカレッジ”を開催します。ぜひ、ご参加ください。

『私、働きたい 私の壁と社会の変化』

対市内に在住、または通勤・通学する女性 定30人 所本町プラザ

時10:00～12:00 申8月30日までに電話・ファクス・Eメールではもりあ四日市まで

費1,000円 他無料の託児あり。ただし、カレッジ申込み時に予約が必要。

日程	内容	講師
9/16(火)	ワークショップ 「私、働きたい」	四日市大学教授 松井真理子さん
9/30(火)	チャレンジ支援・子育て支援 - あなたのためのアドバイス	体験ひろば こどもスペース四日市 理事長 水谷孝子さん
10/14(火)	パパだって子育て 北欧の子育て…スライドとお話 育児休業をとったパパの話	体験ひろば こどもスペース四日市 理事長 水谷孝子さん 四日市市職員 岸田諭さん
10/28(火)	公開講座 「今、女性たちの労働はどうなっているのか」	甲南大学名誉教授 経済学博士 熊沢誠さん
11/18(火)	社会の中で生きていく	フェミニストカウンセラー 石田ユミさん

『ファミリー・サポート・センターを知っていますか？』

“ファミリー・サポート・センター”は、どこにあるの？”って思いませんか？ 通称ファミサポは、どこかの場所のことではないんです。子育て中の家族をサポートする会員組織のことなんです。知っていましたか？ 仕事や家庭の事情で子育てが大変で助けてほしい人(依頼会員)と子育ての経験を生かしたいとか、子育て中の人を援助したいと思っている人(援助会員)が会員となって、地域で子育て支援をする組織として、四日市市では、平成9年にスタートしました。現在は、1000名を超える方が会員登録をされています。

もともとは、このファミリー・サポート事業というのは、働くお母さんたちが、仕事を続けていくうえで最も大きな問題となっている“子育て”を支援するために始まった事業でした。例えば、残業があって、保育園の終了時間に間に合わないときなど、保育園や学校などで対応しきれない部分を、地域で支えあおうということです。

しかし、現在は、働くお母さんだけでなく、ちょっとリフレッシュしたいときや、上のお子さんの行事に下のお子さんを連れて行けないときなどもサポートできるように制度が変わり、毎月約400件の援助活動が行われています。

四日市市は、平成16年4月から、このファミサポをNPO法人体験ひろばこどもスペース四日市に委託しています。

子供が成長して、空いている時間を何か有効に使いたいと思っている方！
そして自分自身も子育て中だけど、時には預かることもできるよという方！
9月に新規援助会員講習会がありますから、ぜひ参加してみてください。

問四日市市ファミリー・サポート・センター TEL322-0023

(NPO法人 体験ひろば こどもスペース四日市内)



つどいよっかいち 速報！！

今年度も、実行委員会の皆さんによる企画案が
まとなりつつあります。
毎月、「つどいよっかいち女と男実行委員会」で
決定したことをこのコーナーで速報としてお知
らせします。

期 日 10月25日(土曜日)
テーマ “ワーク・ライフ・バランス 仕事と暮らしのハーモニー
～市民、事業者と連携して～”
会 場 あさけプラザ

「わたしの家族」の写真と絵を募集します！！

いつも一緒に住んでいる家族、一緒に住んではいないけど大好きな家族、家族と同じくらい大切なペットなど、あなたの大切な家族を写真で、絵で表現してみませんか。

写真 L～A4サイズ。1人1点。どなたでも応募いただけます。

絵 小学生以下のお子さんが描いた絵。1人1点。八切りサイズ。絵の具・クレヨンなど画材は自由。

申込み 9月30日までに所定の応募用紙に記入のうえ、郵送またはご持参ください。

〒510-0093 四日市市本町9-8 はもりあ四日市内「つどい四日市女と男」実行委員会事務局
楠総合支所、各地区市民センター、あさけプラザ、はもりあ四日市に置いてあります。

今月のおすすめ本

今月号は、雑誌の紹介です。図書コーナーには、雑誌もあり、最新号以外は、貸し出しもしています。

「女も男も - 自立・平等」

年2回発行の季刊誌。春・夏号では、『働きながら介護する』がテーマで、介護と仕事の両立のためにはどんな施策が必要かという対談や介護保険制度活用法などが掲載されています。

「女性情報」

新聞の切り抜き情報誌です。「がんばれ女性議員！ 政治を変える女たち」、「ACTION ポジティブな女たち」などの連載記事や“少子化・子育て支援”、“企業”などの項目で全国の新聞記事が分類されていて、情報収集をするときに大変役に立ちます。また、後期高齢者医療制度やワーク・ライフ・バランスなど、毎月1つずつ特集が組んであります。

図書の貸出期間を1ヶ月間に変更しました。ご了承ください。



今月のキーワード

ポジティブ・アクション

社会のさまざまな差別を受けている人たちに対して、**差別が解消するまで行う特別な取組みのこと**をいいます。男女共同参画の場合、法律上では、男女雇用機会均等法などがつくられていますが、急に社会が変わるわけではありません。例えば、女性の管理職は男性と比べるとかなり少ないですし、女性の人数がとても少ない職場もあります。これらの男女間にある格差を改善するために、この格差が解消するまで期間限定で女性を多く採用するとか、女性が管理職として活躍できるよう、研修を実施して自信をつけさせるなどの、特別な取組みのことを「ポジティブ・アクション」といいます。



ガンバレ！
女性たち！

登録グループイベント情報

9月7日(日) NPO 法人 体験ひろば こどもスペース四日市
「たくましく生きていく子どもが育つために」 「子どもの目が輝くとき」Part.
講師：天野秀昭氏(NPO 法人プレーパーク世田谷自然体験遊び場事業担当)
『プレーパーク(冒険遊び場)活動を通して、
自然の中で育まれる子どもの主体的な育ちなど』について
時 13時～16時 費 800円 他 託児あり(事前予約必要、300円/ひとり)
場 楠ふれあいセンター(ゆめの木)
問 NPO 法人 体験ひろば こどもスペース四日市(321-0883)

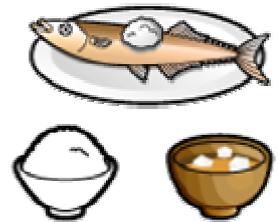
登録グループ紹介

はもりあ四日市に登録されているグループさんを紹介していきます。今回は、四日市友の会さんです。

四日市友の会

代表者 梅谷修子 会員数 130名
連絡先 326-2081

月刊誌「婦人之友」の愛読者の集まりで、会員は全国に21,000人います。
今年「早ね、早おき、朝ごはん」をテーマに、規則正しい生活をして、
健康でエコな暮らしを心がけています。合理的な家事の仕方、計画的な
お金の使い方など、年代を越えて学びあっています。



はもりあ四日市 施設利用について

「こどものへや」をご存知ですか？ はもりあ四日市には、床がクッションになっている「こどものへや」があります。ここには、ソファやたくさんのおもちゃがあって、遊ぶことも絵本を読んだりすることもできます。登録グループの皆さんの予約が入っているときと、はもりあ四日市の事業で託児をしているとき以外は、どなたでも自由に使うことができます。

夏休みに入って、幼稚園のお子さんを連れのお母さんが遊びにきてくれるようになりました。

図書コーナーでは、通常の本と共に最新号以外の雑誌の貸し出しもしています。一度、寄ってみませんか？



四日市市男女共同参画センター (はもりあ四日市)

〒510-0093 四日市市本町 9-8 本町プラザ 3F
TEL.059-354-8331 FAX.059-354-8339

●開館時間 AM9:00～PM9:00

●休館日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/index.shtml>